



みどりの風

令和3年7月1日発行
校報 587号
(みどりの風 130号)
練馬区立関町北小学校

子供のやる気を引き出す3つの言葉

～「どうした?」「そうなんだ。」「どうしたいの?」～

副校長 笠原 秀浩

2度の緊急事態宣言の延長に伴い、1カ月の延期となった体育フェスティバルも無事終了することができました。練習に伴う洗濯や準備、様々な精神的サポートなど、本当にありがとうございました。ほとんど演技が仕上がってから延長となった2週間の中で、様々な学年に自分たちの演技を見てもらい、さらに磨きをかけて保護者の皆様にお見せすることができました。子供たちも大きな拍手をいただき、とても満足そうでした。ご支援とご協力に感謝いたします。

皆さんは、子供たちが目の前でふさわしくない行動を取っているときどのような言葉がけをしますか。

先日、我が家の娘とこんな場面がありました。

私の部屋には、ロップイヤーラビットという品種の1歳を過ぎたばかりの耳が垂れた黒いウサギが1羽います。中学1年生の娘がきちんと世話をするからという約束で、私の部屋で飼うこととなりました。娘は、毎日、面倒を見てくれ、いつも一緒に遊んでいます。可愛がっていることがよく分かります。

ある日、部屋に入ると、部屋の空気が尿の臭いでいっぱいでした。日に1回は変えなければいけない、うさぎのおしっこシートを変えずにいることがすぐに分かりました。そのことが分かった瞬間に私は、「すぐに来なさい!」と1階で遊んでいる娘を2階から呼びつけ、目の前にある悲惨な現状（おしっこの海と化しているうさぎのトイレ）を指摘し、うさぎを飼うに当たってした約束、こんな状況が自分だったらどう思うか、うさぎが可哀そうだと思わないのか、ということについて矢継ぎ早に言い、きつい口調で叱りました。娘はとても悲しい顔でうさぎのトイレをきれいにしていました。

皆さんは、私と同じような言葉かけをお子さんにしてはいないでしょうか。

学校という仕事場において、このようなことが起きたらどのようにしているか、振返ってみました。

きっと、次のような言葉をかけます。子供たちが目の前でふさわしくない行動をしていたときは、まず、「どうした?」と理由を聞きます。見つけた瞬間に良くない行動だと判断できたとしても、「どうしたの?」と聞きます。行動には理由が必ずあります。そのようにしなければいけない背景が子供なりにあるのです。その理由が大人にとってはどうしようもないと感じるときもありますが、まずは理由を聞きます。理由も聞かれず、頭ごなしに注意されると、自分のことを分かろうとしてくれていない、また、大人ルールにがんじがらめにされると思っ、子供は心を閉ざしてしまいます。

理由を聞いた後は、それを理解します。「そういう理由があったんだね。」と話した理由を受け入れます。「それはそうするしかなかったかもね。」などと肯定するときもあります。もしそこで、理解ではなく問題の指摘にすり替わると、子供たちはたちまち心を閉ざします。最後に、「どうしたいの?」と自己決定を促します。そこで、もしかすると大人としては納得できない行動かもしれませんが、そのときは対話が必要になってきます。「何かお手伝いできることある?」と聞くのもよいかもしれません。

「あなたのことを信じ、あなたのことを理解し、あなたのやりたいことを支援したいんだよ。」ということ積み重ねることこそが、子供のやる気を引き出すことにつながると私は考えます。

私も中学生の娘の心に寄り添えるよう言葉がけをしていきたいものです。